

早期に秋耕を実施しましょう！

- 水稻収穫後、早期に稲わらをすき込むことで、地力の向上や還元障害の軽減、病虫害や雑草の防除等に効果が期待できます。
- 耕起前には堆肥や土づくり資材を投入し、さらなる地力の向上を目指しましょう。

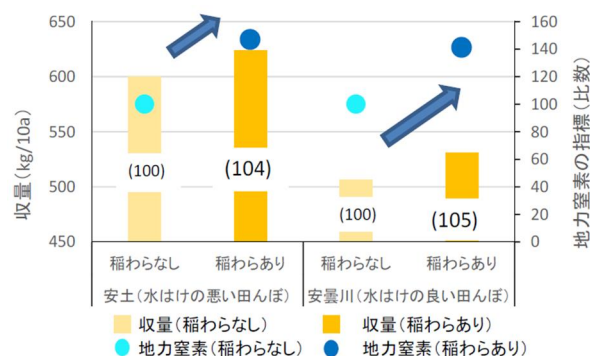
1 秋耕のポイント

- ・ なるべく早い時期（遅くとも年内）に耕起しましょう。
- ・ 気温が低くなると、微生物の活性が低下して稲わらの分解が進みません。

2 秋耕の主な効果

①地力の向上と還元障害の軽減

- ・ 稲わらをすき込むことで地力が向上（地力窒素が増加）し、水稻の収量が増加します。
- ・ 秋のうちに稲わらの分解が促進されることから、翌水稻作での還元障害が軽減されます。



(図) 稲わら施用による水稻収量および地力向上効果

出典：滋賀県「水田土づくりマニュアル」

②病虫害や雑草の防除

- ・ 近年増加傾向にある縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、刈り株再生芽（ひこばえ）で越冬し、翌年の病害発生の原因となります。ひこばえを秋耕で埋没することにより、ヒメトビウンカのほか、黄萎病を媒介するツマグロヨコバイ、ニカメイガといった害虫やいもち病、紋枯病といった病害の発生を軽減できます。
- ・ 多年生雑草であるオモダカやクログワイの塊茎を地表に出現させることで、乾燥・凍結により翌年の発生を減らすことができます。

③獣害対策

- ・ ひこばえの出穂を防止し、「エサ場」として認識させないことで獣害の発生を防ぎます。